

平成17年11月26日

(社)大阪総合医学・教育研究会／こども心身医療研究所における

私的研修の試み

目的：

1. 医師が教育、心理、福祉など各臨床現場の現状を知り、子どもの発達を重視する臨床的視点を啓蒙する
2. 医療・心理・教育の3分野の相互理解・交流を深め、臨床現場での良好な連携を図り、他領域の専門性・役割を理解する
3. 毎回ひとつのテーマを決め、臨床実践・研究共に第一人者を講師に招き、臨床に即した情報を、まとめて(3時間～6時間)聴く
4. 講師は外部から第一人者を招くと共に、当研究所の職員が、実習も踏まえて、臨床的体験の講義をする
5. 参加者がこのセミナーで得た1. 2. の体験を地域に持ち帰り、その地域での他職種との連携を深めていく

【上記の目的を実践する中で、現在は下記の特徴をもつ】

6. 参加者の交流(離島の泊り込みで、全員が集らざるをえない環境)
7. 各地で孤軍奮闘している者の同窓会的雰囲気は創られ、各自が日頃の臨床の大変さを発散させる役割をもつ(最多参加者は9回)

内容：

1. 添付資料(第15回のプログラム)を参照
2. 客員講師は例年1名 専門分野の第一人者を招聘
3. 他の講師はこども心身医療研究所の職員
4. 実習：自律訓練法・ヨーガ・箱庭療法
5. 日本小児科学会・日本小児科医会・日本心身医学会(3学会)の専門医更新の点数を認められている。日本小児心身医学会をはじめ、各種団体の後援を得ている

日時・場所：

1. 例年、秋(10月か11月)の連休 二泊三日
2. 岡山県牛窓の離島

費用：

宿泊・食事込みで55,000円(岡山駅からの交通費も含む)

参加者数：

1. 毎年約80名前後
2. 初期は教育関係者が多く、現在は小児科医が大多数を占める
3. 地域は初期、関西中心であったが、現在はかなり全国的になっている

【今後への展望】

内容的には現在の形が望ましいと思われるが、参加者の拡大はいつでも可能である(但し宿泊施設の関係で100名以内)

テキストなどは添付の資料を参照されたい

子どもの心の診療における教育・研修到達目標 イメージ

教育・研修の到達目標

卒前教育（医学部教育）

- 1) 一般教育目標
 - 子どもの心の問題について配慮する必要性を認識している。
- 2) 個別行動目標
 - <知識>
 - 子どもの精神発達とその問題に関する基礎的知識を有する。
 - 子どもの心の問題の代表的なものに関する基礎的知識を有する。
 - 心身相関に関する基礎的知識を有する。
 - 子ども虐待に関して、
 - 1種類
 - 2疑うべき状態
 - 3疑ったときの対応
 - 4通告義務
 - についての知識を有する。
 - <技能>
 - 子どもの臨床を行う際、子どもと家族の心に配慮した問診や説明ができる。
 - <態度>
 - 子どもの臨床を行う際、子どもと家族の心に配慮した態度を習得している。

卒後研修

- ◎ 新医師臨床研修
 - ※今後、医師臨床研修制度の見直しが行われる際、すでに実施している内容も含め、子どもの心の問題に関する内容についての具体的な到達目標について検討する。
 - 1) 一般教育目標
 - 子どもと接するときに心の問題に配慮したり、精神的問題を持った成人と接するときにその子どもの状況に配慮する必要性を認識している。
 - 2) 個別行動目標
 - 小児科
 - <知識>
 - 子どもの運動発達、言語発達に関する重要なマイルストーンを述べることができ、
 - 子どもの心の問題の有無を認識するための知識を有している。
 - 子ども虐待に関して、リスク項目、初期対応、早期発見及び通告先についての知識を有する。
 - <技能>
 - 身体的虐待を疑う技能を有する。
 - 発達歴、家族関係、友人関係についての問診ができる。
 - <態度>
 - 子どもの権利に敏感に対応することができる。
 - 親を責めずに支援する態度を有する。
 - 精神科
 - <知識>
 - 子どもの精神障害の種類及びその診断に関する知識を有する。
 - 精神障害を持った親の子育ての問題に関する知識を有する。
 - <技能>
 - 産後うつ病等、子育てに影響する精神的問題の存在を判断できる。
 - 一般精神科の問診において、子どもの問題をきめた問診ができる。
 - <態度>
 - 精神的問題を持った親を診療する際、子どもの人権に配慮することができる。

小児科・精神科一般医※1

【小児科】

- 1. 一般教育目標
 - 子どもの心も問題について配慮する必要性を認識しており、身体的疾患を抱えた子どもの心の問題に配慮したり虐待対応をすることができ、
 - 子どもの心の問題に関しての軽症例への初期対応とそれ以上の例に関しての適切な紹介ができる。
- 2. 個別行動目標
 - (1) 知識
 - 子どもの正常発達（運動発達、言語発達、社会性の発達）に関する知識を有する。
 - 発達の違いや偏りに関する知識を有する。
 - 親子関係の問題に関する知識を有する。
 - 子ども虐待に関する知識を有する。
 - 心身相関に関する知識を有する。
 - 身体化症状に関する知識を有する。
 - 抗不安薬および抗うつ薬の薬理と副作用に関する知識を有する。
 - 身体疾患や薬物によって子どもに引き起こされる精神症状に関する知識を有する。
 - 身体疾患や薬物によって子どもに引き起こされる精神症状に関する知識を有する。
 - (2) 技能
 - 言葉の遅れなど、発達の問題や行動の問題を把握する技術を有する。
 - 癲癇、睡眠障害、排泄障害、単純チック障害、合併症のない不登校、などの診断と治療ができる。
 - 発達障害やその他の情緒障害を見逃さない技能を有する。
 - それらの障害に関しての初期対応ができ、適当な医師に紹介できる。
 - 心の問題の背後にある身体疾患を鑑別できる。
 - 育児指導の技術
 - 親子関係の問題に対するアドバイスができる。
 - 子ども虐待を見逃さない技能を有する。
 - 子ども虐待への初期対応ができる。
 - 母子保護、学校保健への参加ができる。
 - 福祉との連携ができる。

【精神科】

- 1. 一般教育目標
 - 青年期中期以上の精神障害の診断と治療、青年期初期以上（11歳以上）の子どもの診断ができ、それ以下の子どもに関しては、紹介することができる。
 - 精神障害を持った親や虐待をしている親の子育てに関する指導や支援ができる。
 - 精神障害と連携して、青年期の精神保健に係わることができる。
- 2. 個別行動目標
 - (1) 知識
 - 子どもの正常発達（言語発達、心理的発達）に関する知識を有する。
 - 発達の違いや偏りに関する知識を有する。
 - 親子関係の問題に関する知識を有する。
 - 子ども虐待に関する知識を有する。
 - 妊娠、分娩時の親の精神障害に関する知識を有する。
 - 親の精神障害が子どもに及ぼす問題に関する知識を有する。
 - 親の向精神薬投与が子どもに及ぼす問題に関する知識を有する。
 - 家族の関係性に関する知識を有する。
 - (2) 技能
 - 精神障害を持った親への育児指導ができる。
 - 子どもを虐待してしまう親への治療やケアを行なうことができる。
 - 子どもの発達障害や情緒障害を見逃さず、必要に応じて紹介できる。
 - 概ね15歳以上の患者さんの診断と治療ができる。
 - 概ね11歳以上の患者さんの思春期の問題に関して診断ができ、必要に応じて紹介できる。
 - 10歳以下の学童期の子どもの問題に関しての紹介先を知っている。

子どもの心の診療を専門とする小児科・精神科医※2

日本小児精神学会 日本小児精神神経学会 日本小児心身症学会 日本児童青年精神医学会 等

◎：サプスヘジャリティーとしての設備においては、ある問題や必要な年齢範囲に特化した技能を持つ医師もいる。以下は最低限必要な教育目標である。

- 1. 一般教育目標
 - 子どもの心の問題について、中等症例までの対応と適切な紹介ができる。
 - 地域における保健、福祉、教育との連携ができる。
- 2. 個別行動目標
 - (1) 知識
 - 子どもの発達の違いや偏りを判断するための知識を有する。
 - 主な精神発達理論を簡単に説明できる。
 - 養育、母子相互作用について簡単に説明できる。
 - 生育環境の問題による心の問題を説明できる。
 - 主な精神発達理論を簡単に説明できる。
 - 養育、母子相互作用について簡単に説明できる。
 - DSM、ICDの診断に関して簡単に説明できる。
 - 子どもの精神発達に関する知識がある。
 - 精神障害全体に関する知識がある。
 - 発達障害に関して説明ができる。
 - 行動の問題に関して説明ができる。
 - 子どもの精神療法、家族療法などに関する概説的知識がある。
 - 向精神薬に関する一般的な知識を持っている。
 - 子どもの身体疾患や薬物による精神症状に関する知識を持っている。
 - 子どもに行われる心理検査に関する知識を持っている。
 - (2) 技能
 - 発達の違いや偏りや行動の問題の早期発見ができる。
 - 身体疾患との鑑別ができる。
 - 発達障害の診断ができる。
 - 合併症のない発達障害を治療することができる。
 - その他の中重度までの情緒障害や心身症に関する外来での診断と治療ができる。
 - 不登校や引きこもりに関して統合失調症やうつなどの精神障害の鑑別ができる。
 - 親子関係の問題に関する見立てや介入ができる。
 - 虐待が疑われた子どもや親子関係の心理的アセスメントができる。
 - 虐待を受けた子どもとその親に対する関係性への治療を行なうことができる。
 - 診断に基づいた親へのガイドランスができる。
 - 適切な心理検査を依頼できる。
 - 診断に補助的に必要な検査（脳波、画像検査等）を選択することができる。
 - 地域保健、福祉、教育等と連携することができる。

子どもの心の診療高度専門医※3

全国児童青年精神科医会総務部 国立成宮医療センター 国立精神神経センター 日本小児総合医療研究会 等

- 1. 一般教育目標
 - 子どもの心の問題に関して重症例、難治例、特殊例を含め、診断と治療ができる。
 - 研修医の指導ができる。
 - 地域の子どもの精神保健体制における助言、指導ができる。
 - 精神障害の子どもに関する保健、福祉、教育、司法などの連携ができる。
- 2. 個別行動目標
 - (1) 知識
 - 子どもの発達に関する様々な理論に精通している。
 - 子どもの精神障害の診断基準（DSM、ICD、O-3など）に関する知識に精通している。
 - 乳幼児精神医学から思春期精神医学までの基礎的な知識を有している。
 - 子どもや家族全体への様々な精神療法の理論を知っており、その適応を理解している。
 - 薬物療法に精通しており、薬物の相互作用に関して理解している。
 - 入院治療の理論を理解している。
 - コンガルーセッション、リエゾンに関する知識をもっている。
 - 子どもの権利擁護に関する知識を有している。
 - 子どもの精神医療に係わる法律に精通している（児童福祉法、児童虐待防止等に関する法律、発達障害者支援法、精神保健福祉法、O3法など）。
 - 保健、福祉、教育、警察、司法、矯正の制度に精通している。
 - (2) 技能
 - どのような年齢の子ども（0～15歳）にも適切な診断面接ができる。
 - 親面接、親子面接に精通しており、必要な情報を集められる。
 - どのような年齢の子どもにも精神的問題の見立て（formulation）ができる。
 - 乳児期から思春期末まで、診断基準に基づいた適切な診断ができる。
 - 発達障害、情緒障害およびその合併症など、重症例を含めたすべての精神障害を持った子どもへの診断、治療および家族への対応ができる。
 - 子どもの精神療法、親子治療ができる。
 - 適切な薬物療法ができ、そのコンサルトもできる。
 - 家族へのさまざまなアプローチができる。
 - 親子の関係性に関する治療ができる。
 - 虐待を受けた子どもとその家族の精神医学的アセスメントができ、司法に対する書類を作成することができる。
 - 虐待を受けた子どもと家族に関しての見立てと治療ができる。
 - 入院療法が行なえる。
 - コンガルーセッション、リエゾンおよびチーム医療を行なうことができる。
 - 危機介入（自殺企図、虐待など）を行なうことができる。
 - 周産期の精神保健に対応することができる。
 - 子どもの権利擁護を行なうことができる。
 - 保健、福祉、医療、警察、司法、矯正へのコンサルトができる。
 - 医療連携ができ、相談に乗ったり、協同して患者さんを診療することができる。
 - 小児科・精神科の研修医および医師の指導ができる。

※1 小児科・精神科の専門研修（卒後臨床研修終了後の研修）を終了し、一般的な診療に携わる医師

※2 1であって、子どもの心の診療に関する一定の研修を受けた医師で、ある特定の領域の子どもの心の診療に専門的に携わる医師。子どもの心の診療をサブスペシャリティーとして行う医師。

※3 1であって、子どもの心の診療に関する専門的研修を受けた子どもの心の診療に専門的に携わる医師

卒前教育

卒後研修

小児科

共通内容

第240回例会
秋季セミナー
キャリアンセミナー2005
プログラム

社団法人 大阪総合医学・教育研究会 定例学術研究会特別例会(第240回例会)

主催 社団法人 大阪総合医学・教育研究会

こども心身医療研究所

後援

- 大阪府 ●兵庫県
- 日本小児心身医学会 ●日本小児科医学会
- 大阪府医師会 ●(財)関西カウンセリングセンター
- 養護教諭研究フォーラム ●(財)大阪市教育振興公社
- 江崎グリコ株式会社 ●(財)母子健康協会

●教育委員会

大阪府 兵庫県 奈良県 岡山県 石川県
鳥取県 和歌山県

明石市 芦屋市 尼崎市 和泉市 泉佐野市
伊丹市 大阪市 大阪狭山市 貝塚市 加古川市
交野市 門真市 岸和田市 倉吉市 神戸市
堺市 四條畷市 摂津市 泉南市 高石市
高槻市 宝塚市 豊中市 西宮市 阪南市
枚方市 箕面市 八尾市

(市教委のみ50音順)

忠岡町 千早赤阪村

日本小児科学会 認定医点数5点

日本小児科医学会「子どもの心相談医」 研修更新点数5点

日本心身医学会 認定医点数3点

日本医師会・大阪府医師会 生涯研修認定

財団法人 関西カウンセリングセンター 認定研修

※キャリアンセミナーは(財)日本臨床心理士資格認定協会のワークショップに昨年度承認されました。

こども心身医療研究所

活動報告

《私たちの活動を紹介します》

1. 社団法人 大阪総合医学・教育研究会／こども心身医療研究所

昭和 52 年（'77 年）11 月に阪大の小児科医が中心になり作られた「大阪小児心身症研究会」が発展し、昭和 60 年（'85 年）5 月に公益法人となり「社団法人 大阪総合医学・教育研究会」と改称。翌年、付属の「こども心身医療研究所」を設立。小児科領域から心身症・神経症を専門的・総合的に診ていくわが国初めての機関としての活動を開始。

治療は医学的治療に加え、一般的な心理治療と、親子ヨーガ、不登校児に対する学力補充、対人関係の練習を目的とした集団治療、臨床心理士が家庭教師として行う在宅治療、夏休みに行う「劇をつくるキャンプ（'87～'96）」「ポニーと暮らすキャンプ（'97～）」など、独自の治療法も臨床経験の中で考え出され実践してきた。最近の公的機関の適応教室や民間のフリースクールなどに先駆ける試みを 21 年前から続けている。

☆こども心身医療研究所の診療時間☆

月曜日から金曜日：午前 9：30～午後 6：00（金曜のみ午後 6：50）

土曜日：午前 9：30～午後 4：30

（初診、再診とも原則として予約制で行うが、緊急時は可能な限り診療時間内の随時対応を心がけている）

*現在、大阪小児心身症研究会から続いている定例学術研究会（年 9 回、毎月第 2 金曜日夜に開催）は日本小児科学会の認定医の研修単位を認められた学術例会である。心理的なものに興味を持ち、子どもをみる立場の専門家なら職種にかかわらず参加可能。カリヨンセミナーはその特別例会として開催し、今回は第 240 回目の定例学術研究会にあたる。

2. 私たちの著書

- ①こども心身医療研究所編『小児心身医学—臨床の実際』（朝倉書店）
わが国で初めての本格的な子どもの心身医学の専門書。（現在絶版）
- ②富田和巳責任編集・監修『小児心身医学の臨床』（診断と治療社）
上記の①の全面改訂版として、発行後の臨床経験や知見をもとに、まったく新しい構想で執筆された異色の専門書。編者の文化論を大きく扱うなど、従来みられない医学書になっており、小児科医以外の養護教諭や相談員にも役立つ内容。
- ③こども心身医療研究所編『子どもの心を知る—事例でみる心身医学入門』（法政出版）
学校現場で実践に役立つ心身医学・心理・精神医学の解説書。（残部僅少）
- ④富田和巳編『健康相談～事例からみる心の叫び～』全 3 巻（ぎょうせい）
全国の養護教諭から寄せられた事例に小児科医が解説をつけたもので、小学校低学年・高学年・中学校の 3 巻に分かれている。
- ⑤富田和巳著『子どもたちの SOS』正・続 2 巻【日本図書館協会選定図書】（法政出版）
産経新聞に長期連載（3 年 6 か月）されたものをまとめ加筆したもの。（残部僅少）

- ⑥富田和巳著『心からみるアレルギー』 (法政出版)
アレルギー疾患を心身症としてみる視点をわかりやすく解説。(残部僅少)
- ⑦富田和巳著『子どもたちの警告ー不登校・いじめは日本の文化』【日本図書館協会選定図書】
『不登校克服マニュアルー助けを求める子どもたち』 (法政出版)
一般的視点と異なった著者の不登校・いじめ論と具体的な対応を述べる。(残部僅少)
- ⑧富田和巳著『学校では遅すぎる ころの家庭教育』 (三学出版)
思春期の問題は乳幼児期の家庭教育にあるとする著者の主張をまとめたもの。
- ⑨富田和巳著『不登校ー予防と対応ー』 (財団法人 大同生命厚生事業団)
⑦をまとめて小冊子として書き改めたもの。
- ⑩富田和巳著『厳しさを忘れた家庭・学校教育 小児科医の教育診断』 (ばすてる書房)
産経新聞教育欄で1年4ヶ月にわたって連載された教育エッセイ「語ろう 教育」の単行本化。表面的優しさあふれる教育現場の誤りを指摘する。(残部僅少)
- ⑪富田和巳著『心はればれ元気なからだ』 (ばすてる書房)
小学校の養護教諭を対象にして書かれた心身医学の解説書。「保健だより」などにコピーして使えるページも付いている。

*いずれもセミナー期間中は割引販売(10~20%)を事務局で行っています。後日、ご希望される方は最寄りの書店にご注文くださるか、直接こども心身医療研究所まで!

3. 社団法人 大阪総合医学・教育研究会の理事名

名誉理事長	辻	久子 (バイオリニスト)	
理事長	富田	和巳 (こども心身医療研究所所長・阪大小児科非常勤講師)	
理事	一色	玄 (大阪市立大学医学部名誉教授)	
	井本	惠章 ((財)関西カウンセリングセンター理事長)	
	江崎	勝久 (江崎グリコ㈱代表取締役)	
	大堀	彰子 (こども心身医療研究所臨床心理士)	
	葛西	健造 (アップリカ葛西㈱代表取締役)	
	加藤	敬 (こども心身医療研究所臨床心理士)	
	小林	陽之助 (関西医科大学名誉教授)	
	瀬島	順一郎 (大阪産業大学学長)	
	仲野	由季子 (こども心身医療研究所小児科医)	
	西嶋	加壽代 (こども心身医療研究所小児科医)	
	野口	幸助 (関西歌劇団理事長)	
	堀川	一晃 (㈱ウィザス代表取締役)	
	増澤	空 (㈱ティエラ代表取締役)	
	美濃	眞 (大阪医科大学名誉教授)	(理事名は五十音順)
監事	稲本	順孝 (㈱オーシャン設計代表取締役)	
	山下	重義 (㈱エスワイ代表)	

4. こども心身医療研究所スタッフ

医 療	富田 和 巳 (小児科医：所長) 仲野 由季子 (小児科医) 大下 朋 成 (小児科医) 西嶋 加壽代 (小児科医) 吉原 直 子 (小児科医) 栗山 貴久子 (小児科医) 服部 祐 子 (小児科医) 大川 薫 (小児科医)	藤本 淳 三 (精神科医) 高津 尚 子 (内科医) 今林 晶 子 (看護師) 稲本 ツル子 (看護師) 小林 千 鶴 (栄養士)
心 理	加藤 敬 (臨床心理士) 大堀 彰 子 (臨床心理士) 藤原 由 妃 (臨床心理士) 杉山 祥 子 (臨床心理士) 畑野 陽 子 (臨床心理士) 佐藤 篤 (臨床心理士)	中村 有 生 (臨床心理士) 中澤 里 英 (臨床心理士) 中村 慶 子 (心理士) 高石 公 資 (心理士) 片岡 惠 美 (心理士)
教 育	藤本 雅 (教師) 清利 佐 和 (芸術) 中村 淳 子 (茶道)	バーナード・メンドンサ (英会話) 家庭教師担当の大学院生若干名
事 務	山口 正 晃 (事務局長) 山本 雅 子 (事務) 藤井 靖 子 (事務)	木下 麻 美 (事務) 棕本 俊 美 (経理事務)

5. 研究活動

昨年度1年間(平成16年4月～平成17年3月)に発表された論文、および学会活動は以下のようなものである(これまでの活動状況は各年度のレジメに記載)。

1. 平成16年度 社団法人 大阪総合医学・教育研究会 学術研究会
 - 第226回(2004.4.16) 演題「精神科臨床で診る『発達障害』」
かく・にしかわ診療所 郭 麗月
 - 第227回(2004.5.14) 演題「自閉症児への理解と対応」
高石心理臨床活動舎 高石 公資
 - 第228回(2004.6.11) 演題「自閉症における『心の理論の意味』について」
大阪教育大学 山本 晃
 - 第229回(2004.7.9) 演題「発達障害と母子心理臨床」
大阪市立大学大学院 松島 恭子
 - 第230回(2004.9.19) 演題「高機能広汎性発達障害者への心理支援」
こども心身医療研究所 加藤 敬
 - 第231回(2004.10.9～11) 牛窓研修センター(カリヨンハウス)
客員講師：筑波大学 宮本 信也・こども心身医療研究所スタッフ
<特別例会>第14回秋季セミナー
 - 第232回(2004.11.12) 演題「発達障害－他の精神障害との関連について」
大阪府立精神医療センター(旧大阪府立中宮病院) 名誉院長 藤本 淳三

第 233 回 (2005.2.4) 演題「発達障害外来 (LD 外来) を通して学んだこと」

大阪医科大学 鈴木 周平

第 234 回 (2005.3.11) 演題「診断ができなかった軽度発達障害 (アスペルガー?) 例」

こども心身医療研究所 仲野 由季子

(講師の敬称略)

2. その他の定期講習会(当研究会スタッフが講師を引き受けたもの)

#子育て支援セミナー (平成 16 年度は 3 回実施)

#関西カウンセリングセンター カウンセリング講座基礎コース

3. 学会・研究会発表 (主なもの)

①日本精神科看護技術協会 2004.4.23 アピオ大阪

富田 和巳: こどもを取り巻く環境

②心の教育女性フォーラム 2004.5.8 熱田神宮会館

富田 和巳: シンポジウム「教育とは何か」

③大阪市教育委員会 2004.6.18 大阪市立総合生涯学習センター

富田 和巳: こども心身医療研究所の活動について

—各分野の専門家による連携がうまく機能するためには—

④豊中市学校保健会 2004.6.23 豊中市市民会館

富田 和巳: “普通の”子どもと事件を起こした子どもの間にあるもの

—子どもの心と身体の育ち方—

⑤大正区学校保健協議会 2004.7.1 大正区コミュニティセンター

富田 和巳: 現代の子どもをとりまく『食』の環境

⑥宝塚市教育委員会 2004.7.2 宝塚市立西公民館

富田 和巳: デジタル時代の子育て

⑦第 6 回岐阜小児心身セミナー 2004.7.14 岐阜会館

富田 和巳: 子供と社会—基本から考える—

⑧富田林市教育委員会 2004.8.9 富田林市公会堂

富田 和巳: 不登校問題を考える

⑨豊中市教育センター 2004.8.20

加藤 敬: 専門的立場からみた不登校児童生徒への支援のあり方

⑩養護フォーラム 2004.8.20

仲野 由季子: スポーツ外傷児の心のケア

⑪第 42 回愛媛県小児科医会 2004.9.5 愛媛県医師会医学研修所

富田 和巳: 一般小児科外来での心身症の診かた

⑫第 31 回日本小児栄養消化器肝臓学会 2004.9.19 国立リハビリテーション記念青少年総合センター

富田 和巳: 特別講演「愛情は胃の腑を通る—消化器心身症を考える—」

⑬兵庫県私学連合会学校カウンセリング研究会 2004.11.19

加藤 敬: 不登校・心因性疾患への心理支援—集団・社会経験を治療に活用する—

⑭摂津市人権教育啓発推進委員会 2004.11.21 市立第四中学校

富田 和巳: 子育てについて

⑮佐渡乳幼児保育支援フォーラム 2004.12.4

富田 和巳: 厳しさを忘れた家庭・学校教育

⑯大阪府臨床心理士会 2004.12.12

加藤 敬：軽度発達障害への心理支援

⑰八尾市教育相談所 2005.1.26 八尾市教育相談所

富田 和巳：発達障害のみかた

⑱兵庫県 PTA 協議会 2005.2.16 神戸市県民会館

富田 和巳：厳しさを忘れた家庭・学校教育

⑲第 39 回日本心身医学会近畿地方会 2005.2.19

大堀 彰子：性同一性獲得に問題をもつ抜毛癖の 1 症例

⑳川西市教育相談所 2005.3.5 川西市文化会館

富田 和巳：家庭で傷ついた子どもたちへの支援について
－教師にできることとできないこと－

*その他にも各地の医療・教育に関連する集会・研究会の講師を多数引き受けました。

4. 専門誌

①富田和巳：Ⅲ主な救急疾患（基本的治療法と重症化予知）⑧境界疾患・事故関連疾患⑫心因反応. 内科医・小児科研修医のための小児救急医療治療ガイドブック, pp433-437, 診断と治療社

②富田和巳：座談会「小児精神神経疾患・心身症の薬物療法」. 小児科診療増刊号『小児の臨床薬理学』, 67:637-650, 2004.

③富田和巳：小児心身症の薬物療法. 小児科, 45:1223-1229, 2004.

④富田和巳：過換気症候群. 今日の小児診断指針 第4版, pp193-194, 医学書院

⑤富田和巳：心の病気. 新編百科 家庭の医学, pp127-129, 主婦と生活社

⑥富田和巳：学校で特別なケアが必要な子どもたち. 保健の科学, 46:726-730, 2004.

⑦富田和巳：子どもの心の健康問題への対応. 学校保健フォーラム, 9:13-16, 2005.

⑧富田和巳：小児の摂食障害. 今日の治療指針 2005, pp982-983, 医学書院

⑨富田和巳：異見；震災と自衛隊、そして PTSD と「心のケア」大合唱. 大阪保険医雑誌 No.457, p52-54, 2005.

*大阪府保険医協会発行の「大阪保険医雑誌」に富田が「私の文化評」を連載(4ヶ月毎)しています。

5. 一般誌・取材

①富田和巳：特集 子どものストレス・不登校・いじめ. きらら, pp57-67, 2004.

*その他、一般誌や新聞などの取材もいくつか受けました。

あらゆるお問い合わせは、こども心身医療研究所まで
〒550-0001 大阪市西区土佐堀 1-4-6
TEL. 06-6445-8701 FAX. 06-6445-7341

【ホームページ <http://clinic.to/shinshin/>】